

# 28P-am324

摂南大学薬学部における初年次物理教育でのプレ・ポストテスト

○柳田 一夫<sup>1</sup>, 栗尾 和佐子<sup>1</sup>, 山本 祐実<sup>1</sup>, 曾根 知道<sup>1</sup>, 前田 定秋<sup>1</sup>(<sup>1</sup>摂南大薬)

【目的】プレ・ポストテストは、最初と最後の講義で同じ試験を行い、点数の推移から講義の効果を測る方法である。本学薬学部の新入生は、約 50%が高校で物理を未履修であり、リメディアル教育の観点から、補習を含めどのような講義が効果的かを測る手段として 2008 年度からこのテストを行っている。しかし、この方法が適切かどうかの検討がまだ十分に行われていなかった。そこで、今回は、このテストと高校での物理の履修状況および本試験との関係を検討した。

【方法】プレ・ポストテストでは、力学、力学的エネルギー、熱力学、電気、波動などに関する物理の公式を選択肢から選ぶ形式の問題を用いた。

【結果・考察】プレテストの結果と高校での物理の履修状況とが対応すること、ポストテストと本試験との間に相関（相関係数 0.5 程度）があること、およびプレ・ポストテストで点数の上昇がみられることが観察された。この結果から、このテストは、講義前の学力や講義の効果を大まかにとらえるのに有効であることが確認できた。